

普及活動情勢報告（平成26年9月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

J A土佐くろしおニラ部会決算総会で震災対策を周知



J A土佐くろしおニラ部会の決算総会が8月29日に開催され、38名の生産者が参加しました。

多くの部員が集まったこの機会に、南海トラフ巨大地震に備えた農業用燃料タンク対策について説明しました。

施設栽培において、災害時の燃料タンクの倒壊や重油流出による二次災害の予防対策について周知することができました。

今後も、農産物の安定した生産活動を継続できるように生産部会への情報提供を継続しています。

J A土佐くろしお4Hクラブが新規就農者激励会を開催



J A土佐くろしお管内の新規就農者と若手農業者の交流を図る新規就農者激励会が9月2日に開催され、新規就農者と4Hクラブあわせて20人が参加しました。この激励会は毎年4Hクラブが開催し、J Aと振興センターが支援しています。

今回は、青果物流通の動きと量販店や加工業者の販売戦略についての講演を行いました。日頃あまり話を聞く機会の少ないテーマで参加者の関心も高く、「市場や量販店へ行って自分の野菜がどうやって売られているのか見てみたい」など、感想がありました。また、地区や栽培品目を超えた若手農家同士の交流や、関係機関との意見交換も多く行われるなど、活発な激励会となりました。

はやとuri（チャーテ）の粕漬け視察（龍王営農組合）



梶原町の集落営農組織「龍王営農組合」は、チャーテの粕漬け技術等を学ぶため、視察研修を9月3日に行い4名が参加し、同行しました。

龍王営農組合では、フキやチャーテの漬物加工販売に取り組み始めましたが、課題も多いため、先進的な取り組みをしている土佐町平石生活改善グループとの情報交換を支援しました。塩漬けから味付けまでの作業工程やチャーテの収穫時成熟度合いによる歩留まり、また販売単価、賞味期限等について学び、秋からの活動の参考となりました。

試作、商品評価、表示、包装、販路等の様々な取り組みについて、今後も営農組合と共に取り組んでいきます。

J A津野山園芸部が関西で販売促進活動を実施



J A津野山園芸部で栽培に取り組んでいる米ナスや甘長トウガラシの消費拡大と消費地での情報収集を目的に、生産者、J A津野山職員とともに西宮阪急で試食宣伝を9月6日に行いました。これは、「産地も積極的に消費地でPRすべき」と、振興センターが提案して実現しました。消費者にレシピを配布しながら「甘長トウガラシのベーコン巻き」や「米ナスのお好み焼き」の試食・PRを行いました。買い物客からは、「甘長トウガラシの食感が良い」、「米ナスのお好み焼きは初めて食べておいしかった。レシピをください。」などの声を多数いただき好評でした。

今後も生産者やJA等とともに管内青果物の販売促進活動を行い、消費者への県産青果物のPRに取り組みます。

J A津野山園芸部でGAP圃場点検を実施



J A津野山園芸部（ナス部会、シシトウ部会、ミョウガ部会）を対象にGAPの圃場点検活動を関係者とともに9月11日に行いました。GAPチェックシートによる確認は以前から取り組んでいましたが、現地圃場点検は、ナス部会のみでした。今回からはシシトウ部会とミョウガ部会も実施することになりました。

現地確認では、圃場の整理整頓、廃棄物の管理、農薬保管庫の状況等を点検して回り、気になる点や改善策などを生産者と確認しました。

各農家の取組意識も高く、啓発活動を継続している成果を感じました。今後、園芸部反省会等の場で年間の取り組み状況を検証していきます。

施設花き(ダリア)におけるIPM実証ほ現地検討会



9月17日にダリアのIPM実証ほ現地検討会が行われ、管内ダリア生産者と芸西地区のダリア生産者及び関係者17名が参加しました。

管内の施設花き（ダリア）では、今年から天敵と赤色防虫ネットを組み合わせたIPM技術の導入を検討しており、当日は天敵・害虫の調査を行ったあと、現在までの経過等について説明しました。芸西地区ではすでにIPM技術を実証しており、天敵の導入時期や導入方法、農薬使用について活発な情報交換ができました。

今後も他産地の事例を参考にしながら、関係機関と連携して技術の確立と普及に向けて取り組んでいきます

農産物直販所安全安心ネットワーク連絡会を開催



管内の直販所（12店舗）で構成する「農産物直販所安全安心ネットワーク（H25.7月設立）」の連絡会を9月24日開催し、関係機関を含め20名が参加しました。会では、店舗で販売する商品について、適正な表示、加工品等出荷者の営業許可の確認、農薬登録の変更等の情報提供を行いました。また、店舗担当者からは、「生産履歴記帳に取り組んでいるが、少量多品目なので履歴の回収・確認作業が大変」、「取り組むメリットを感じてもらうのには？」等の意見がありました。

今後も直販所間の情報交換等を行い、安全安心な農産物・加工品を販売する体制づくりを支援します。